

## 安全データシート

### 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	モゲトン粒剤
製品コード	AK5002J
会社名	アグロ カネショウ株式会社
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂4-2-19 赤坂サステイスト7F
電話番号	03-5570-4711 (所沢事業所:04-2003-7006)
緊急時の電話番号	同上
FAX番号	03-5570-4708 (所沢事業所:04-2003-7302)
メールアドレス	<a href="mailto:toiawase@agrokanesho.co.jp">toiawase@agrokanesho.co.jp</a>
推奨用途及び使用上の制限	農薬(除草剤)

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分外
	自然発火性固体	区分外
健康に対する有害性	自己発熱性化学品	区分外
	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分1A
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1(呼吸器系)
環境に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器系、腎臓)
	水生環境急性有害性	区分1

※記載がないものは「分類対象外」または「分類できない」

#### ラベル要素

#### 絵表示又はシンボル



#### 注意喚起語

#### 危険有害性情報

危険  
強い眼刺激  
発がんのおそれ  
呼吸器系の障害  
長期又は反復暴露による呼吸器系、腎臓の障害  
水生生物に非常に強い毒性

#### 注意書き

#### 【安全対策】

適切な保護眼鏡または保護面を着用すること。  
使用前に取り扱い説明書入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
指定された個人用保護具を着用すること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
粉塵を吸入しないこと。

必要なとき以外は環境への放出は避けること。  
**【応急措置】**  
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。  
 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
 取り扱った後、手を洗うこと。  
 暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てをうけること。  
 暴露した場合、医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。  
 漏出物を回収すること。  
**【保管】**  
 施錠して保管すること。  
**【廃棄】**  
 内容物、容器を都道府県知事／市町村の規則に従って、適切に廃棄すること。

**3. 組成及び成分情報**

単一製品・混合物の区別  
 成分及び含有量

混合物

[有効成分]

化学名又は一般名

2-アミノ-3-クロロ-1,4-ナフトキノ  
 (一般名 ACN、キノクラミン)

分子式(分子量)

C<sub>10</sub>H<sub>6</sub>ClNO<sub>2</sub> (207.61)

CAS番号:

2797-51-5

官報公示整理番号

化審法: (4)-390

(化審法・安衛法)

安衛法: -

濃度又は濃度範囲

9%

[その他成分1]

化学名又は一般名

シリカ

CAS番号:

14808-60-7

官報公示整理番号

化審法: (1)-548

(化審法・安衛法)

安衛法: 第57条の2(通知対象物質)

濃度又は濃度範囲

<50%

[その他成分2]

化学名又は一般名

鋳物質微粉、界面活性剤等

濃度又は濃度範囲

>41%

**4. 応急措置**

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師の診断、手当てを受けさせること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を取り除き、石鹼と多量の水で洗い流すこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合

直ちに水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで直ちに医師の診断、手当てを受けさせること。

**5. 火災時の措置**

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

<p>特有の危険有害性</p> <p>特有の消火方法</p> <p>消火を行う者の保護</p>	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p> <p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。</p> <p>消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。</p> <p>消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
---	--

**6. 漏出時の措置**

<p>人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置</p> <p>環境に対する注意事項</p> <p>封じ込め及び浄化方法・機材</p>	<p>屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。</p> <p>漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。</p> <p>作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵等を吸入しないようにする。</p> <p>風上から作業し、風下の人を待避させる。</p> <p>流出した製品が河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。</p> <p>回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。</p> <p>漏出物を直接に河川や下水に流してはならない。</p>
--	--

**7. 取扱い及び保管上の注意**

<p>取扱い</p> <p>局所排気・全体換気</p> <p>注意事項</p> <p>安全取扱い注意事項</p> <p>保管</p> <p>保管条件</p> <p>容器包装材料</p>	<p>技術的対策</p> <p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。</p> <p>みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取り扱う。</p> <p>屋外または換気の良い場所で取り扱うこと。</p> <p>粉塵等を吸入しないこと。</p> <p>眼、皮膚、衣類に付けないこと。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。</p> <p>施錠して保管すること。</p> <p>データなし。</p>
--	--

**8. ばく露防止及び保護措置**

<p>設備対策</p> <p>管理濃度</p> <p>許容濃度</p> <p>(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)</p> <p>日本産衛学会(2009年版)</p> <p>ACGIH(2010年版)</p> <p>保護具</p> <p>呼吸器の保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具</p> <p>衛生対策</p>	<p>粉塵やミストが発生する場合、局所排気装置を設置すること。</p> <p>設定されていない。</p> <p>吸入性結晶質シリカ 0.03mg/m<sup>3</sup></p> <p>TWA 0.025mg/m<sup>3</sup>(石英)</p> <p>適切な呼吸器保護具(保護マスク)を着用すること。</p> <p>適切な保護手袋(不浸透性手袋)を着用すること。</p> <p>適切な眼の保護具(ゴーグル型保護眼鏡)を着用すること。</p> <p>適切な保護衣(耐薬品性エプロン等)を着用すること。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</p>
--	--

**9. 物理的及び化学的性質**

<p>物理的状態</p> <p>形状</p> <p>色</p> <p>比重(密度)</p>	<p>細粒</p> <p>茶褐色</p> <p>1.0 g/cm<sup>3</sup> (見かけ比重)</p>
---	--

<b>10. 安定性及び反応性</b>	
安定性	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	通常の条件下では安定。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	通常の条件下では生成しない。 加熱や燃焼により分解し、有害ガスを発生するおそれがある。
<b>11. 有害性情報</b>	
急性毒性 経口	ラット経口LD50 >5000 mg/kgに基づき、区分外とした。
経皮	ラット経皮LD50 >2000 mg/kgに基づき、区分外とした。
皮膚腐食性・刺激性	ウサギにおいて皮膚刺激性がみられなかったことから、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギにおいて眼刺激性が認められるが、適用21日以内に回復したことから、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	皮膚感作性: モルモットにおいて皮膚感作性がみられなかったことから、区分外とした。
発がん性	区分1Aに分類されるシリカをカットオフ値の0.1%以上含有することから区分1Aとした。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1に分類されるシリカをカットオフ値の10%以上含有することから区分1とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1に分類されるシリカをカットオフ値の10%以上含有することから区分1とした。
<b>12. 環境影響情報</b>	
水生環境急性有害性	コイ96時間LC50値が3.6mg/L、ミジンコ48時間EC50値が4.1mg/L、藻類72時間EC50値が0.54mg/Lから、区分1とした。
水生環境慢性有害性	有効成分ACN(9%)は、急速分解性のため区分外であるが、その他成分(91%)が不明であるため、分類できなかった。
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
<b>14. 輸送上の注意</b>	
国際規制 海上規制情報	IMOの規定に従う。
UNNo.	3077
Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID,N.O.S.
Class	9
Packaging group	III
Marine Pollutant	-
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UNNo.	3077
Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID,N.O.S.
Class	9
Packaging group	III
Marine Pollutant	-
国内規制	輸送に関する国内法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

**特別安全対策**

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

**15. 適用法令**

農薬取締法	第9109号
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	該当しない
労働安全衛生法	第57条の2(通知対象物質): シリカ(政令番号312)

**16. その他の情報**

**財団法人 日本中毒情報センター**

散布作業中や散布後に異常を感じた場合は、直ちに医師の手当てを受けてください。処置法などで不明なことは、医師から下記に電話してお尋ねください。

中毒110番	一般市民向け	医療機関専用有料電話 (1件につき2,000円)
大阪 (365日, 24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば (365日, 9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

1. 記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
2. 注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
3. 記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。